令和 4（2022）年度 第 2 回 水工学委員会および幹事会（最終版）

日　時：令和 4 年 11 月 23 日（水）18:00～21:00
場　所：松山市総合コミュニティセンター
出席者
中北英一(顧問)，立川康人，矢野真一郎，溝口敦子，二瓶泰雄，鼎信次郎，田中規夫，竹林洋史（代理：新谷哲也），泉典洋，大石哲，椿涼太，中山恵介，手計太一，森脇亮，宮本仁志，内田龍彦，佐山敬洋，山田朋人，岩崎理樹，川越清樹，小田僚子，田端幸輔，柿沼太貴，陰山健太郎，鈴木良徳，戸田祐嗣，谷口健司，武田誠，山口弘誠，入江政安，市川温，川池健司，小林健一郎，赤松良久，三輪浩，杉原裕司，重枝未玲（委員 36 名）
委任状提出（委員 12 名）：諏訪義雄，風間聡，田中賢治，山上路生，梅田信，芳村圭，平林由希子，石川博基，荒木千博，佐藤隆宏，大澤範一，田村隆雄
(48/50 名)
大槻順朗(オブザーバ)，林淳二(土木学会事務局)
欠席者：道奥康治(顧問)，中川一(顧問)，寶馨(顧問)，清水康行(顧問)，知花武佳，渡邊武志，山城賢(オブザーバ)，深見和彦(オブザーバ)，
記録者：小林健一郎　(以上，敬称略)

０．立川委員長挨拶
・議事に先立ち，立川委員長より挨拶があった．

≪報告事項≫
１．令和4年度水工学委員会構成（幹事長）　資料1-1,2
・資料に基づき説明された．
・委員は 2 名退任して交代．オブザーバーの水害対策小委員会幹事長が山梨大の大槻先生に交代．
２．令和4年度の年間スケジュール（幹事長）　資料2
・資料に基づき説明された．
３．令和4年度水工学に関する夏期研修会（東京大学，小田委員）　資料3
・小田委員より資料に基づき開催状況の報告があった．
４．水シンポジウム2022inやまがた（風間委員（代理：幹事長））　資料4
・風間委員（代理：矢野幹事長）より，開催状況が報告された．
５．部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画
➢部　会　：　河川部会（諏訪委員（代理：内田委員）※一部協議あり　資料5-1
環境水理部会（竹林委員（代理：新谷先生））　資料5-2
基礎水理部会（田中規委員）　資料5-3
➢小委員会：　河道管理小委員会（田中規委員）　資料5-4
グローカル気候変動適応研究推進小委員会（中山委員）　資料5-5
河川観測高度化小委員会（椿委員）　資料5-6
水工学オンライン小委員会（谷口委員）　資料5-7

	水害対策小委員会（大石委員）	資料5-8
	水理公式集例題集編集小委員会（泉委員）	資料5-A
➢関連委員会：	CommonMP（風間委員（代理：幹事長））	資料5-9
	海岸工学委員会（入江委員）	資料5-10
	流域管理と地域計画の連携（市川委員）	資料5-11
	土木建築TF（立川委員長）	資料5-12
	河川懇談会（二瓶委員）	資料5-13
	企画委員会（二瓶委員）	

・各部会長，小委員長および関連委員から，各部会，各小委員会，関連委員会の活動報告と今年度の予定に関して説明があった．詳細は資料の通りである．なお，河川部会から内規の変更の提案があり，以下が承認された．幹事が4名増．幹事を増やすことについての会則変更．編集体制充実について会則変更．水害対策小委員会は土木建築TFの共同のイベントなどに取り組み，現小委員長から当て職で土木建築TFに加わる．河川災害シンポジウムも日本建築学会からの報告も検討し，開催時期も3月8日(火)の合同シンポジウム以降にすることを計画している．

６．水工学の今後10年の研究課題について（立川委員長）　資料6

・立川委員長より，これまでの作業と議論の状況報告があった．11 月 25 日のアゲールシンポで最終的な議論を行うので，参加して意見を出して頂きたいとの要請があった．

７．防災学術連携体ビデオ作成WG（幹事長）　資料7

・矢野幹事長より，WG での作業完了の報告があった．作成された画像は自由に利用して良い旨のアナウンスもあった．保存先は資料に掲載されている．

７．その他

・なし．

≪協議事項≫

１．令和 4 年度第 67 回水工学論文集編集作業（編集幹事長）　協議資料 1

・溝口編集幹事長より，今年度の編集の状況の説明があった．

今年度の残業務と次年度以降の課題として，

- ■ 以前の審議通り，各論文賞を今年度中に決定し HP 上で公開予定．
- ■ 来年度から土木学会論文集の書式へ変更される．
- ■ 11 月頃の講演会では conift 上で論文を資料という形にして掲載し，数か月後に JSTAGE に掲載する．
- ■ 2023 年は水工学論文集特集号がなくなり，2023 年は 2024 年に発刊（年度内，2 月頃には発刊）
- ■ 和文論文は和文論文に英文論文は J. of JSCE、来年度は水工学論文集として発刊できない．ページ数でなくて論文番号になる．
- ■ 学位論文などのために，論文受理した時点で水工学委員会から通知は出せる．和文論文としてアクセプトか，J. of JSCE としてアクセプトか表現を変える必要がある．

２．水圏工学編集小委員会からの提案（風間委員（代理：幹事長））　協議資料 2

・風間委員（代理：矢野幹事長）より，英文論文集である J. of JSCE への水工学論文集（土木学会論文集特別号）からの推薦を取りやめることが提案され，了承された．取りやめ時期（2022 年水工まで推薦を行う）については今後，応相談．

３．令和 5 年度第 68 回水工学講演会について（大阪，入江委員）　　協議資料 3

・入江委員より，来年度の講演会に関する準備状況の説明があった．大阪大学内の 2 つの会場候補について説明され，中之島センターを第一候補として準備を進めることになった．加えて，矢野幹事長より令和 6 年の講演会について富山での開催の提案があり，第３回水工学委員会で結論を出すこととなった．

４．令和 5 年度水工学に関する夏期研修会　（札幌，水工学委員会担当，岩崎委員）　　協議資料 4

・岩崎委員より，来年度の夏期研修会（8/31-9/1）に関する準備状況の説明があった．

５．令和 5 年度水シンポジウム（佐賀県，大串先生（代理：幹事長））　　協議資料 5

・矢野幹事長より，来年度の水シンポ（8/3-4）に関する準備状況の説明があった．

６．今後の水シンポの在り方について（幹事長）　　協議資料6

・矢野幹事長より，前回委員会で提案された今後の水シンポの開催方法について改めて説明があり，協議の結果，継続審議することとなった．令和 6 年度の開催地については，第 3 回水工学委員会で協議することとなった．

７．令和 4 年度の水工学委員会の予算について（幹事長）　　協議資料 7

・矢野幹事長より，今年度予算の決定額が示され，現状での使用状況が報告された（402 万超残）．3 月末まで執行可能であるので，必要な場合は幹事長へ連絡して欲しい旨連絡された．

８．新顧問の推薦（委員長）

・清水義彦前水工学委員長が顧問に推薦され，認められた．

９．その他

・年度内（2 月下旬）に第 3 回水工学委員会をオンライン開催．日程調整を行う．

≪次期水工学委員会委員長選挙≫

・内規に従い，出席者（代理含む）36 人，委任状提出 12 人の計 48 人であり，定足数が満たされて選挙が成立することが確認された．

　選挙の結果，泉典洋先生が次期水工学委員長に決定した．

以上